

猛暑による熱中症疑いが発生しています。

# 暑熱対策をしましょう！

暑熱ストレスで、食欲低下、受胎率の低下など、重症の場合は熱中症による死亡も発生します。

## 日陰と換気

暑い日差しから逃れる日陰と、十分な風通しを確保しましょう。

## 親も子も、「水」

哺乳中の子牛でも、水は必要です。  
清潔な水槽で、新鮮な水を与えましょう。  
(鉱塩も一緒に)



### 夏場に必要なたの量

	夏場に必要なたの量
哺乳子牛	1日あたり、約2～4L (哺乳以外で)
肉用牛 育成	1日あたり、約25～57L (体重100kgあたり、約16L)
肉用牛 肥育	1日あたり、約38～78L
肉用牛 繁殖	1日あたり、約25～43L
乳用牛 泌乳牛	1日あたり、約75～180L

気温、牛の大きさ、餌(特に粗飼料)により、必要な水の量は変わります。  
十分な飲水は、食欲増進、尿石症の予防にも繋がります。  
※脱水がひどいときは、水中毒にならないよう、一度に大量に飲ませないでください。

参考:日本飼養標準 肉用牛2008年版、乳牛2017年版

## ピロプラズマにご注意ください。

ピロプラズマは、ダニが媒介する、赤血球に感染する原虫(小さな寄生虫)で、貧血、黄疸などを引き起こします。今年、黒毛和種の放牧牛で、ピロプラズマによる貧血が複数頭発生しました。暑熱や低栄養によるストレス、分娩前後などで、症状が悪化しやすくなります。ダニの駆虫をしっかりと行い、牛の体調管理にご注意ください。

